

## 高さ68<sup>メートル</sup>世界で初めてフレネルレンズ導入

### コルドゥアン灯台 (フランス)

日本で「トップオブ灯台」といったらどの灯台が選ばれるだろう。いくつかの灯台が思い浮かぶが……甲乙つけられず答えが出ない。

でも、フランスで「灯台の王様」といえば満場一致でコルドゥアン灯台だ。ワインで有名なボルドーの近く、ジロンドの河口に立っている。修道士が掲げる松明から歴史は始まり、建設されたのは1611年。1790年に塔の高さが拡張されているが、下の部分は400年以上の年月を重ねている。

なぜこの灯台がフランスにおいて王様とまで称されるのか。高さ68<sup>メートル</sup> (日本で一番高い出雲日御碕灯台は44<sup>メートル</sup>)の外観だけでも納得できるが、内部はさらにすごい。大理石のサ

ロンや、ステンドグラスを配した礼拝堂まである。ここは巡礼地でもあったのだ。

そして1823年、フレネルレンズが世界で初めてここに導入された。光を遠くまで放つことのできるこのレンズは、フランス人物理学者であるオーギュスタン・ジャン・フレネルによって発明された。それまでは、<sup>ろうそく</sup>蝋燭やオイルランプの光を鏡で反射させるなどして放っていたが、嵐の夜は十分に届かなかった。フレネルレンズの発明によって多くの船、そして人命が救われたことだろう。その最初の光がここから放たれたと考えると感慨深い。

この灯台を訪れるにはロワイヤンという港から観光船を利用する。潮汐に合わせて船は出航し、乗客は浅瀬で降りて膝まで海水に浸かりながら近づいていく。フランス語だがガイドもあり、内部の見学も可能だ。(つづく)



コルドゥアン灯台